

令和 8 年度 県立鉾田第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像	○思いやりの心や感動する心、挑戦する心を持ち、協働して物事に取り組める生徒 ○確かな学力と広い視野を持ち、主体的に課題解決できる生徒 ○高い志をもって仲間たちと切磋琢磨し、充実した学校生活を送れる生徒 ○地域を活性化し、地域社会に貢献できる生徒 ○6年間の教育計画により、全教職員がその専門性を活かし、組織的できめ細かな教育を実践する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
- 生徒の学習実態を把握・共有し、学校全体での指導を展開することができた。今後は、基礎的な学習内容の理解と定着を第一の目的とし、生徒の到達度を把握しながら指導の計画・実施をする必要がある。 - 教科の特性や生徒の学習実態に応じて、少人数制学習やティームティーチング等の学習形態を工夫することができた。授業進度が速まることにより学力差が顕著となったクラスにおけるさらなる工夫が求められる。 - 生徒一人一人との面談や保護者との面談をとおして、本人の希望する進路の実現に向け、適切な助言をすることができた。 - 生徒が積極的に学校行事や部活動に取り組める環境が整備できた。また、行事の精選および適切な運営により、負担なく効果的な教育活動が展開できた。 - 各部活動では、生徒の主体的な運営ができた。種目が限られた中でも、生徒がより満足感を得られる活動内容を工夫していく。 - 異学年交流を生徒主体で実施することができた。そのなかで、異なる文化を背景にもつ生徒どうしが互いに寛容の態度をもち、好ましい人間関係を構築していくことができるよう支援していく必要がある。 - ホームページの充実、パンフレット等の配付	基礎学力・授業の質の向上	「単元テスト」の特性を活かすとともに、メリハリのある考査日程を計画することで、学習習慣の確立、基礎学力の定着を図る。 - 知識の習得をもとに、各教科および総合的な学習の時間で「自ら課題を発見し、解決する力」の向上を図る。 - 授業力向上のため、教員間の相互授業参観と校内授業研究を推進し、職員の指導力及び授業の質の向上につなげる。 - 指導力向上のため、職員が教材研究や自己研鑽に努める。	
	個に対応した指導の充実	- 生徒の学習状況を適切に見極め、少数数学習やティームティーチングを活用するなど指導方法・指導内容を工夫する。 - 特別な支援を必要とする生徒の指導に対応する研修会を実施し、組織的対応を図る。 - I C Tの適切な活用により、個別最適な学びを推進する。	
	進路意識・進路実績の向上	- 中高一貫教育を基盤として、職員が指導力を高め、生徒の進路意識高揚や希望進路実現につなげる。 - 各学年の進路行事の意義を十分に指導し、自己の在り方や生き方について考えさせる。 - 生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させると共に、悩みや不安に寄り添う時間とする。 - 進路に関する講演などで収集した正確な情報を進路指導に活用する。 - 大学進学を踏まえ、基礎学力の定着を図りつつ、成績上位層への指導を工夫する。	
	特別活動・部活動の一層の活性化	- 学校行事への主体的な参加を促し、学級活動や委員会の活動にも主体的に取り組み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 - 部ごとの活動目標を明確にし、目標に沿った生徒の主体的な活動を支援する。	

別紙様式 2 (中)

による広報活動を積極的に展開できた。ホームページの更新体制を整え、更新頻度を上げていく。 ・行事の精選および適切な運営、および職員が協同して業務に取り組む体制を構築することで、校務の負担を軽減し、在校時間減少を図る。さらに、職員の「ワークライフバランス」への意識を向上させ、働き方の意識改革を図る必要がある。			・キャリアパスポートを効果的に活用するために、生徒自身の足跡をきちんと残せるように指導する。	
		マナーや規範意識の向上	・異学年交流をとおして、生徒の自己有用感を高めることにより、規範意識の向上を図る。 ・スマートフォンや SNS 等の使い方に対して、事前指導や家族とのルールを共有し、未然防止、家庭との連携に努める。	
		学校評価の推進	・自己評価、外部評価の内容を工夫し、適切な評価方法・評価対象等を検討する。 ・各種委員会や学校評価アンケートをとおして家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握する。 ・学校ホームページを定期的に更新し、保護者目線を基盤にして、学校活動を活性化させる。	
		働き方改革	・時間外在校時間の職員月平均を 35 時間以内に作る。 ・「働きがいを感じている」と答える職員 100%を目指す。 ・学校行事や教育活動の見直しを図り、目的と目標を明らかにした効果的で効率的な教育活動を実践する。 ・業務を共有し、協同して取り組むことで休暇を取りやすい体制を構築する。 ・日常的なコミュニケーションを大切にし、同僚性の向上と風通しのよい職場づくりをめざし、協働して業務に取り組める体制を整える。	
		授業改善	・相互授業参観を活性化させ、職員同士が授業の改善点について日常的に話し合い、授業改善を推進する。 ・生徒による授業評価における「授業満足度（思考力・判断力・表現力等の向上」、「興味・関心をもって、主体的に学習に取り組むことができた」の質問項目で、肯定的評価 80%以上を目指す。	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語	・国語への興味関心の高揚と基礎的な知識の定着	・学校図書館を活用し、読書指導の充実を図る。		
		・漢字、語彙の学習をとおして、表現に必要な基本的な知識を身につけさせる。		
	・生徒が主体的に言葉への自覚を高める学習の工夫	・多様な情報と自らの知識と経験を結びつけ、自分の考えをまとめ、表現する力を高める授業の工夫をする。		
		・ICT 機器を活用して、意見の共有をおこない、言語活動の充実を図る。		
	・授業改善	・探究的な学びのプロセスを意識した単元構成や課題の設定を工夫する。		
社会	・確かな学力の育成 ・基礎的内容の理解の徹底と授業方法の研究	・各授業の単元において、課題を適切に設定し、課題解決的な学習を実践する。		
		・単元テスト等を活用して実態把握を適切に行い、基礎的内容の定着を図る。		

別紙様式 2 (中)

数学	・現代の社会への関心の高揚	・言語活動を適切に取り入れ、生徒の思考力・判断力・表現力等の育成を図る。		
		・生徒の主体的な学習参加を促すため、教材を工夫し、「分かる授業」の展開を図る。		
		・ICT 教育のさらなる推進を行うために、パワーポイントやデジタル資料等、Chromebook の適切な活用を図る。		
		・大学入試共通テストを見据えた学力の育成について、指導方法の研究を適宜行い、表現力等の向上を図る。		
		・我が国の伝統や文化、法や金融、消費者行政、人権等に関する諸問題を取り上げ、現代の社会への興味・関心を高める。		
	・確かな学力の育成	・課題を多面的・多角的に考察する力の育成を図るため、ICT や各資料を効果的に使用することで、「分かる」授業となるように工夫する。		
		・各授業の単元において、課題を適切に設定し、課題解決的な学習を実践する。		
	・基礎的内容の理解の徹底と授業方法の研究	・単元テスト等を活用して実態把握を適切に行い、基礎的内容の定着を図る。		
	・授業改善	・単元テストを実施し、定着度を把握しながら授業改善を図る。		
	数学	・きめ細かな授業の展開	・生徒の理解度を把握して、授業の展開や説明方法を工夫する。	
・1 学級を 2 つに分けるなどして、丁寧な指導を行う。				
・家庭学習習慣の確立と基礎的な事項の定着		・問題集等の活用により、家庭学習習慣の確立を図る。		
		・生徒が進度に合わせた学習ができるよう、授業で問題演習の時間を確保する。		
・応用力の育成と意欲をさらに高める指導		・難度の高い問題も提供し、生徒のさらなる意欲と思考力の伸長を図る。		
		・生徒の質問に、内容に応じて適切に対応する。		
・授業改善		・授業参観を相互に行い、意見交換を行う。		
		・中学・高校の枠を越えて、問題の解法や指導方法について研究し、授業に生かす。		
理科	・学力の向上	・単元テスト、総合テストを実施、知識・理解の定着		
		・科学的な思考力・判断力・表現力等を高めるため、考察・振り返りの時間設定。		
		・レポートの作成・提出・評価による学力の定着。		
	・設備、備品の充実	・設備備品を整備、学習環境の向上		
		・Chromebook を活用し、ICT の効果的活用。		
	・生徒の学習意欲の向上	・実験・観察による学習を充実、興味関心、学習意欲の向上。 ・課題設定の明確化、生徒が主体的に取り組む授業展開。		
・授業改善	・高校教員との連携、より専門的な教材研究・高校理科への意識。			
	・単元テスト実施、知識の定着と学力向。			
音楽	・音楽表現への意欲	・視聴覚教材等を活用した分かりやすい授業をとおして、音楽や音楽文化への興味・関心を高め、主体的に音楽表現に取り組む態度を育成する。		

別紙様式 2 (中)

	・表現の技能の習得	・多様な演奏活動をととして、創意工夫を生かした音楽表現に必要な技能を身に付けさせ、確かな学力の定着を図る。			
	・主体的に取り組む態度の育成	・古典から現代まで幅広い音楽に触れさせることで、豊かな心情や思いやりの心を育むとともに、仲間と協働して学ぶ態度を養う。			
	・授業改善	・ICT の効果的な活用や楽器を用いた活動の充実を図り、個に応じた指導と協働的な学びを推進することで、組織的できめ細かな教育の実践につなげる。			
美術	・表現力の向上	・美術作品の良さや造形的な視点について理解し表現方法を創意工夫することで自ら創造的に表す態度を育てる。			
	・個々の技能を伸ばす工夫	・個々の力を伸ばすため、補助や助言を行ったり、手本を示したりして、個人指導の充実を図る。			
		・積極的な作品づくりを促し、技能を伸ばすとともに、様々な表現技法を習得させる。			
	・主体的に取り組む態度の育成	・美術文化や生活の中の美術の働きを考えることをととして、鑑賞の能力を高めるとともに、創造的な技能や美術を愛好する心情、豊かな感性を育む。			
保健体育	・授業改善	・積極的に発表する機会を設ける。			
	・体力の向上	・個人の新体力テストの結果が、昨年度を上回るように目標設定、体力向上を図る。			
		・生徒の運動時間を確保し、自ら体力を高める学習の工夫を行う。			
	・授業の充実	・授業をととして運動の楽しさを実感させ、自主的・自発的に活動できる力を養う。			
	・規範意識の醸成	・授業をととして、ルールやマナー及び時間を守る態度を養う。			
	・副教材を利用した授業の工夫	・GoogleClassroom、パワーポイント、DVDなどを活用し、分かりやすい授業の展開を図る。			
技術	・授業改善	・ジグソー法を取り入れ、教え合い、学び合いの活動時間を確保し、活発な意見交換などができるようにする。			
	・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する力の伸長	・授業の中に身近な生活に関する情報を取り入れ、小さなことから段階的に課題を見つける経験ができる発問の工夫をする。			
		・思考ツールやプレゼンテーションソフトなどを活用した対話的活動を多く取り入れ、生徒が多面的・多角的な視点で物事を捉え、課題に向き合えるようにする。			
	・見通しをもった学習のための学習展開	・既習内容に基づいた体験的な学習をととして、生徒が主体的に取り組むことができるようにする。			
		・題材における学習計画や各授業における学習目標を示し、学習に見通しをもたせることで理解力の向上につなげる。			
	・情報活用能力の育成	・表計算ソフトや文書作成ソフトを用いて、様々なデータを扱うことで情報活用における基礎的な資質を身につけさせる。			
	・情報セキュリティ意識の向	・情報活用に関する興味関心をもたせるとともに、情報化の光と影を整理し、情報モ			

別紙様式 2 (中)

家庭	上	ラルやセキュリティに対する意識を育てる。			
	・授業改善	・教材を活かし、五感を使って学ぶことができるよう工夫する。			
	・基礎的な知識と技術の習得	・Chromebook を活用し、実習時の師範などに有効に活用することで、生活に関する基礎的な知識と技術を習得できるようにする。			
	・生活の向上を図る実践的態度の育成	・生活に関する情報を授業に取り入れ、社会の変化に対応できる力を育成できるようにする。			
英語	・授業改善	・実習の際は個別対応を充実させる。			
	・GoogleClassroom を活用し 具体的な目標を意識させた学 習習慣の確立	・主体的に生徒が学習できるよう、GoogleClassroom の活用。 ・予習や宿題、課題テスト及び単元末テスト等への ICT の活用。 ・意欲的に英語学習ができるよう英検、ALT の活用。 ・定期的な英単語テストの実施による、学習の習慣化。			
	・生徒の多様な学力に応じた 指導の充実	・少人数制学習の利点を生かし、授業・復習のサイクルの確立を図る。新テストでも必要とされる 4 技能を総合的に伸ばせるよう、活動と指導法の創意工夫。			
		・補習や GoogleClassroom、Classi 等をとおして、個別対応を充実。			
		・学力推移調査を実施し、個々の英語総合力を判断。 ・少人数や習熟度別学習により、弱点部分を補填・強化できるよう事後の指導。 ・プレゼンテーションや言語活動による、英語を使う目的・場面・状況の設定。			
	・授業改善	・「聴く・話す・読む・書く」の 4 技能包括型活動を積極的に取り入れた授業を実践。			
	・目標達成のための授業展開	・自己を見つめ、人間としての生き方についての考えを深めるために、多様な価値観にふれる学習活動をとおして、道徳的实践力を育成。			
道徳	・道徳資料の工夫	・日常生活や社会の出来事など、身近な出来事を教材化し、生徒が積極的に意見を交換できるように工夫し、活用。			
	・教育活動全体をとおした道徳	・全教育活動をとおして道徳教育を推進するとともに、生徒の発達段階や特性等を教員が適切に把握し、指導内容の重点化。			
	・授業改善	・生徒が多様な価値観に触れることができるような学習活動の工夫。			
	・社会や地域への興味関心の醸成	・探究的な学習を推進するために、生徒の知的好奇心を刺激し、銚田市や自分の住む地域を積極的に調べようとする意欲向上を図る。			
総合的な学習の時間	・課題の解決に必要な知識及び技能の習得	・AAR サイクルを基に探究の過程を学び、課題の設定や情報の整理・分析といった技能の習得を図る。			
	・社会や地域活動への参画	・探究的な学習をとおして調べたことやその研究を実践に生かすため、自分の地域の活動に積極的に参加し、社会参画しようとする態度を育む。			
	・授業時数の確保	・授業時間を確保するとともに、曜日毎の授業時数の均等化を図る。			
教務	・充実した授業のための支援	・各教科と連携し、生徒の学力や希望する進路に即した教育課程を研究し、編成する。			

別紙様式 2 (中)

		・教員間の相互授業参観や校内授業研究を推進し、授業の質の向上に努め、生徒の学力向上につなげる。			
	・行事等の円滑な運営	・学校行事の日程や在り方を見直すとともに、適切に実施できるよう日課の調整を行い、学校運営を円滑にする。			
	・成績等の円滑な処理	・校務支援システムを活用した成績処理や各種帳票類の作成を計画的かつ円滑に進める。			
総務企画	・本校の魅力や生徒の活動の積極的な発信による「銚一ブランド」の確立	・魅力的なスクールガイドやポスターの作成			
		・進学フェアへの参加			
		・オープンキャンパス（小学生対象）の企画、運営			
		・学校公式ウェブページの内容の充実			
	・本校に対する外部の声の広範囲からの収集	・学校評価アンケートの実施、集計、分析			
生徒支援	・生徒が安心安全に学習活動・部活動に取り組める生活環境の整備 ・基本的生活習慣と規則を守る態度の育成 ・各学年及び各部所と連携した生活指導の推進 ・高等学校への接続を意識した生徒指導の推進	生活関係			
		・制服の検討等をとおして、どのような服装をすべきかについて、生徒が主体的に考え、行動できるよう啓発を図る。			
		・校則の見直しをとおして、学校生活について生徒が主体的に考え、行動できるよう啓発を図る。			
		・集会等でルールやマナーについての意識の啓発を図る。			
		・挨拶の励行を徹底する。			
		・さわやかマナーアップ運動をとおして、マナー・モラルの向上を図る。			
		・時間を自己管理できるよう、継続的に声をかけ、時間を守る意識を高める。			
		・貴重品の管理及び移動教室時の施錠を生徒が自主的に行えるよう啓発を図る。			
		・スマートフォンの使用について、ルールやマナーを遵守できるように啓発し、家庭との連携を図る。			
		・校内巡視を実施し、生徒の様子を直接把握するよう努める。			
		・いじめを絶対に許さない姿勢といつでも相談できる受容的な姿勢を教員間で共有し、生徒に発信し続ける。			
	・非行や事故等の未然防止と早期発見に向けた取組	交通関係			
		・公共交通機関における利用方法に関する指導			
		・交通安全講話の実施			
		・自転車点検及び交通安全指導の実施			
		問題行動未然防止対策			
		・ハートフルアンケート（いじめ被害調査）年 6 回実施。問題行動の早期発見・初期			

別紙様式 2 (中)

		対応。			
		・インターネット利用講座実施、スマホルールづくりの保護者への協力依頼。			
		・長期休業前の全校集会における問題行動等の未然防止。			
		・薬物乱用防止教室の実施。			
	・スクールバスの円滑な運行と安全確保	・生徒の乗車希望調査を綿密に行い、銚田二高、委託バス会社さらに校内各組織と緊密に連絡をとりながら、限られた運行条件・運行資源のなかで最大限乗車需要に応えられる運行計画の策定と適切な案内・安全を保つ乗降指導を行う。			
	・支援が必要な生徒の早期発見	・『相談室だより』などによる生徒・保護者への広報			
		・「教育相談アンケート」の実施と、その結果の分析・検討			
		・学年会議での情報収集			
		・生徒情報の整理と関係者によるミーティング			
	・適切な支援の実施	・支援が必要な生徒との面談・必要に応じた保護者との面談			
		・保護者、校内関係者間の円滑な連携の援助			
		・スクールカウンセラーとの連絡、調整			
		・特別な支援を要する生徒についての情報交換及びケース会議			
		・校内研修会（各部との連携等）の計画と実施			
進路支援	・体系的な進路支援の実施	・中高一貫教育の利点を活かし、6年間を見通した上で、高校での学習を意識した進路支援を行う。			
		・1学年では、学習習慣を確立させるとともに、手帳等を活用して、計画的かつ自律的に学習を進められるよう支援する。			
		・2学年では、課題解決型の自律的な学習方法を身に付ける等、生徒の学習の質が向上するよう支援する。			
		・3学年では、生徒に高校での学習や生活リズムを意識させ、学習の質や意欲がさらに向上するよう支援し、高校への円滑な接続を目指す。			
	・学習習慣の確立 （平日の最低家庭学習時間学年＋1時間の確保）	・家庭での学習習慣を確立させるため、手帳や Classi 等の学習記録機能を活用するなどして、日々の取り組みを可視化させる。			
		・学習実態調査の実施（年3回）			
	・効果的な学習指導法の研究と実践	・「授業評価」（授業アンケートの実施、「授業参観メモ」の配付）			
		・先進校視察等、研修の機会を設け、指導法等の研鑽に努める。			
	・進路情報の収集と提供	・生徒面談をとおして、生徒の動向の把握に努める。			
		・研修会等に参加して、情報の収集に努める。			
		・進路資料、情報誌の配付などをとおして、生徒・保護者に適切な進路情報の提供を行う。			

別紙様式 2 (中)

特別活動	・学力向上	・各学年や教科で模試結果の分析を行い、指導上の課題を明確化するとともに、職員間で情報を共有化して授業改善を行い、生徒の学力向上を図る。			
		・各学年や教科で連携しながら、生徒の家庭学習の習慣化を図る。			
	・学習環境の整備	・生徒の学力の到達度に応じて支援体制を整える。			
	・学校行事の改善	・各種学校行事の内容のひとつひとつを丁寧に検証し、本校として実現可能な魅力ある行事の実践に努める。また、すべての行事において、生徒が主体的に企画・運営に関われるようにする。			
	・委員会活動の活性化	・各種委員会の活動内容を見直すとともに、学校行事や日々の学校生活の中に各種委員の活動の場を積極的に設け、活用する。			
	・部活動の活性化	・部活動紹介等の充実と本校伝統の「文武不岐」で啓発する。 ・それぞれの部が特性を活かし、各種大会・発表の場に参加し、活動範囲を広げられるよう支援する。 ・日々の活動や生活の中に規範意識をもつとともに、互いに協力し合う精神を育てる。また、活動場所の整理整頓を常に心がけ、活動環境を整備美化する。			
保健安全	・学級活動の充実	・学校行事や進路指導に伴う学級活動だけでなく、レクリエーション等、各学級活動ならではの独創性のある活動計画を立て、それらの活動をととして協調性や団結心を養う。			
	・キャリアパスポートの活用	・生徒一人一人が自分の足跡を残せるように意識させ、記録を残していけるような助言・支援を行う。			
	・保健衛生習慣の確立	・定期健康診断を適切に実施し、事後措置を確実に行う。			
		・保健室の円滑な運営と健康的な生活習慣を育むための保健指導を実施する。			
	・清掃活動の充実	・日常的な清掃活動（校舎内外の美化）を適切に実施する。			
	・防災意識の高揚	・備蓄品の点検・活用と、防災訓練を実施する。			
図書館	・環境衛生の整備	・定期環境衛生検査の実施と日常の巡視や清掃による環境衛生の保持、整備をする。			
	・学校欠席者情報システムへの報告	・Classi と健康観察板による欠席、健康状況の把握と、欠席情報システムへの入力を実施。			
	・日本スポーツ振興センター保険の活用	・保険の周知に努め、教員が連携して学校生活上の受傷者を把握し、保険を有効に活用する。			
	・教育課程等の展開に即した資料の充実	・図書館部予算の的確な執行。			
		・購入希望図書の調査を実施による、図書の貸し出しと図書館の利用機会の増加。（教員・生徒対象）			
		・より良い図書を選定するための情報収集。			
図書館		・探究活動に対応した選書をし、授業で利用できる資料の充実。			

別紙様式 2 (中)

	・読書、鑑賞等をとおして教養を深め、豊かな人間性を養わせる。	・読書感想文コンクールへの応募等を、国語科と連携して実施。			
		・読書会をとおした、読書に対する興味・関心の向上。			
	・図書館の正しい利用の態度を養い、自学自習の場としても利用させる。	・図書館の正しい利用の態度の育成。			
		・各学年・高校とも協力し、自学自習の場としての静粛と秩序の保持。			
	・生徒図書委員活動をとおして、生徒の自主性を養わせる。	・部職員の指導の下、委員会活動を活性化。			
		・図書館総選挙の投票集計と結果作成・学校行事における図書館の展示等に、生徒図書委員の関わり強化。			
	・図書館管理システムの整備を進め、利用の向上を図る。	・バーコード管理システムを活用し、入力・装備の整備等を実施。			
		・規定に則り、図書の合理的廃棄作業を進め、図書資料の更新。			
渉外	・学校と家庭の交流の充実	・学校行事への保護者参加率向上による、学校における教育活動の理解進化、			
	・状況に応じた事業の遂行	・関係者や関係部署との念密な打ち合わせによる、各種総会や役員会、大会などの事業遂行			
	・さわやかマナーアップ運動の実施	・保護者・生徒支援部・特別活動部と連携した、適切な活動の実施			
1 学年	・基礎学力の向上	・英語、数学、国語での少人数および複数教員による授業の展開。			
	・家庭学習の習慣化	・授業、復習の重要性を認識させ、Classi や手帳を活用した家庭学習時間の可視化を図りながら、毎日の学習習慣の確立を促す。			
	・進路についての意識	・個人面談、講演会等のキャリア支援をとおして、自己理解・社会理解を促進し、自己実現の素地を養う。			
	・基本的生活習慣の定着	・「集団の規律を守り、秩序を保つ」という意識をもたせる。その実現を図るために、挨拶、整理整頓、清掃及び時間の管理について指導を行う。			
	・生徒への対応	・生徒一人一人の状況を丁寧に把握し、情報を迅速に共有し、学年スタッフ、養護教諭や教育相談部及び保護者との連携に努め、組織的に生徒を支援する。			
	・課外活動の促進	・部活動、校外での学習活動等への参加を勧め、様々な自己表現の機会を活用して、内面の成長を促す。			
2 学年	・学力の向上	・英語、国語、数学での少人数授業やティームティーチング授業を充実させ、必要に応じて習熟度別学習を行うなど、基礎・基本の定着を図ることに努める。 ・模試をとおして、自身の実力を把握し、普段の学習にフィードバックさせる。			
	・自主学習の習慣の強化	・学習サイクルの定着の重要性を共有し、自主学習の習慣をさらに強化できるよう、支援に努める。			
	・進路意識の向上	・個人面談、進路講演会等のキャリア支援行事をとおして、自己理解・社会理解に努			

別紙様式 2 (中)

		め、自らの進路を考える時間を確保し、進路に向けた生徒自身の意識の向上を図る。			
	・ 基本的な生活習慣の定着	・ 個々が快適な環境を作るための責任をもつという意識の醸成に努め、集団の規律を守ること、集団生活に必要なことをひとつひとつ身につけられるよう支援する。			
	・ 個々の生徒への適切な対応	・ 生徒一人一人の状況を丁寧に観察し、常に学年で情報を共有し、教育相談部及び保護者との連携に努める。			
	・ 課外活動の促進	・ 部活動、長期休業中の課外、校外でのボランティア活動等への積極的な参加を勧め、様々な機会の中で自己実現の一助とする。			
3 学年	・ 高校入学後につながる学力の維持と人間力の育成	・ 授業中心の学習活動をとおり、授業の大切さを理解させる。高校進学後も学力を維持し伸ばしていけるように、確かな基礎学力・表現力を身に付ける指導を実践。			
		・ 日常の生活での自己管理を徹底させるとともに、家庭学習の習慣化と自学自習できる力を育む。また、全国模試を定期的に受験させ、全国レベルでの学力を客観的に把握させるとともに実践的学力を養う指導を実践。			
	・ 進路希望の実現に向けた細やかな指導	・ 進路目標の実現に向けて、個々に応じた面接指導を頻繁に展開し、目標の確認と反省、学習計画の見直し等を図り、きめ細かな進路指導を実施。			
		・ 詳細なデータ分析を基に、どの生徒に何を求めているかについて、関係する学年スタッフ間で共有し、生徒に提供。			
		・ 校外のセミナーやボランティア活動等の情報を提供し、自己を見つめ直し、社会の一員としての自我を育む指導を実践。			
	・ 銚田一高附属中生としての誇り・自覚の高揚と地域・社会の中核となるべき人間の育成	・ 学校行事に積極的に参加し、人との関わりをとおして、コミュニケーション能力、問題解決能力等を育む。			
		・ 様々な活動の中で、常に銚一附属中のよりよき文化と校風の創造者としての自覚をもたせ、リーダーシップを発揮できるよう指導。			

※ 評価基準： A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分